

作文の部 専門学校生の部



建設業界の四つの魅力

東海工業専門学校金山校 建築工学科 1年
岡村俊哉

「建設業」のイメージとは「汚い」「きつい」「危険」と言う、いわゆる3Kと呼ばれる労働条件を指す言葉が定着しているそうです。

こうした三つの言葉は、マイナスイメージの言葉ばかりですが、私にとっての建設業に対するイメージは「カッコいい」とか「強そう」など子供たちが憧れるようなポジティブでクリーンなものでした。

しかし、実際に自分自身が建設業で働いていることを想像してみると、外での作業が主で、重労働は当たり前、夏は汗だくになり重い荷物を運び、雨の日などは泥まみれになって働いているような気がします。また、巨大な建造物を造るために大きな重機を使用し、高いところで作業をすることも当然であるためとても安全とは言い難い職業とも言えるでしょう。

しかし、建設業界で働く人々はなぜそのように「3K」と呼ばれてしまう仕事を続けていられるのでしょうか。「3K」と呼ばれ、嫌な思いをしていないのでしょうか。

私は建設業界で働くということは「3K」とは別の何かがあると考えています。

世界中で様々な建物が建設されていますが、建物とは「衣・食・住」の“住”にあたり、人間が生きていくためには必要不可欠なものです。建物を造り守ることは社会の中で重要な役割を担っています。建設業界で働いている人々は人間が生きていくための基盤を守るという使命を全うするために「3K」を乗り越えて働いている気がしてなりません。

そして私は世の中が作り上げてきた「3K」という負のイメージを無くし、新しいイメージを構築するため建設業の魅力について四つ考えました。

一つ目は、インフラなどの公共施設に携わり、大

勢の人々の生活を支えているということでもあります。いわば縁の下の力持ち的な職業です。世のために培った能力を生かすことができる仕事はとても魅力的です。

二つ目は、日本の技術力を生かした物作りができることです。日本の建設会社が超高層ビルや巨大な橋などを建設する技術は世界でも最先端であると言われています。海外でも大型物件工事をたくさんしています。世界中で認められている高い技術力は建設業の魅力の一つだと思います。

三つ目は、同じ建物を造ろうとしても人それぞれ、似て非なるものができるということです。有名な建築家でも、私たち学生でも、それぞれの個性があり、その人のオリジナルの建物を造ることができます。このことも建設業の大きな魅力だと思います。

四つ目は、建設物には歴史が詰まっているということです。時代に合わせた様式や材料、立地条件や気候風土、そこで生活してきた人々思いが込められています。それを感じられるということも大きな魅力であると私は思います。

私はそんな魅力があるからこそ、専門学校で建設の勉強をしています。将来は建物の設計をする「建築士」になり、さらには建物を現場で造るための工事責任者である「施工管理技士」になることが夢です。

建設業界は、世間から悪いところばかり目を向けられ、その結果「3K」という言葉が生まれました。建設業は人々の生活基盤を支える大切な職業です。私が考える建設業の四つの魅力をより多くの人伝えていけたらと思います。